


審査委員会報告書

(課程博士用)

報 告 番 号	甲 第 1166 号	授 与 年 月 日	平成 29 年 9 月 29 日
学 位	博 士 (看護学)		
氏 名	生 年 月 日	昭和 50 年 2 月 20 日 生	
	氏 名 (国 籍)	木 全 明 子	
論 文 題 目	看護師による就労支援モデルの構築に向けた婦人科がんサバイバーの就労問題の実態および離職関連要因の検討		
主 論 文 冊 数	1 冊		
審査委員会委員	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> (氏 名) 主査 北里大学 教授 三 藤 久 北里大学 教授 島 袋 香 子 千葉大学 教授 眞 嶋 朋 子 </div> <div style="text-align: right;">  </div> </div>		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	別 紙 1 別 紙 2 別 紙 3		
審査委員会の意見	審査の結果、博士（看護学）の学位を授与できると認める。		

- 【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。
2. 国籍は、外国人のみ記入する。

審査結果の要旨

審査対象者 木 全 明 子

本論文は、労働力の中心となる 20～40 歳の女性に好発する婦人科がんを発症し、一次治療が終了して病状の安定したがんサバイバーに対して、就労の状況、就労継続上の問題、就労の支障となる症状、経済問題などについての質問紙調査と就労問題全般に関して半構造化面接を行い、就労の実態および就労を継続する上での問題、離職の要因に対して検討を行った。婦人科がんサバイバーの就労を継続するための問題点として、婦人科がん特有の下肢リンパ浮腫、便尿失禁などの後遺症状、治療に伴う体力・筋力低下、末梢神経障害などの有害事象、精神疾患の発症、低い自己効力感、職場の理解・就労支援体制の欠如、職場での婦人科がんの病名告知に対する葛藤に加えて、医療者による就労支援およびセルフケア支援の欠如が上がった。また、高いソーシャル・サポート、高いセルフマネジメント、高い自己効力感が就労者の QOL を高める要因となり、疼痛や便尿失禁、個人年収の低下が就労者の QOL を低下させる要因となることがわかった。そして、看護師が診断時より就労の継続を目指した看護支援や情緒的支援、セルフマネジメントの習得に向けた支援、経済的問題への支援に向けての情報収集を行っていくことなどが、看護師による就労支援モデルを開発するにあたり必要性が高いことが判明した。

今後、本研究が目指している婦人科がんサバイバーに対する看護師による就労支援モデルの構築を進めていくためには、今回の研究結果を基により精選した条件で分析を行う必要性があることを見出すこともでき、新たな研究を計画する基礎となることも判明した。

これまで本邦では、婦人科がんサバイバーの就労問題に関する研究は十分に行われておらず、その実態を把握し、就労を阻害する要因について検討した本研究の重要性は高い。また、就労に関して身体、精神的な問題点と社会的な問題点とを結び付けた研究の着眼点は独創的で、高く評価できる。そして、就労支援モデルの開発等、今後の発展性も高い研究であると考ええる。

従って本論文は、北里大学看護学研究科博士課程 学位論文審査基準を十分に満たしていると判断した。

[別紙 3]

試験結果の要旨

審査対象者 木 全 明 子

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。